

トヨタ純正

システムラックアタッチメント取扱書 (ルーフボックス)

このたびは、トヨタ純正システムラックアタッチメント（ルーフボックス）をお買い上げいただきありがとうございます。
ご理解をいたします。

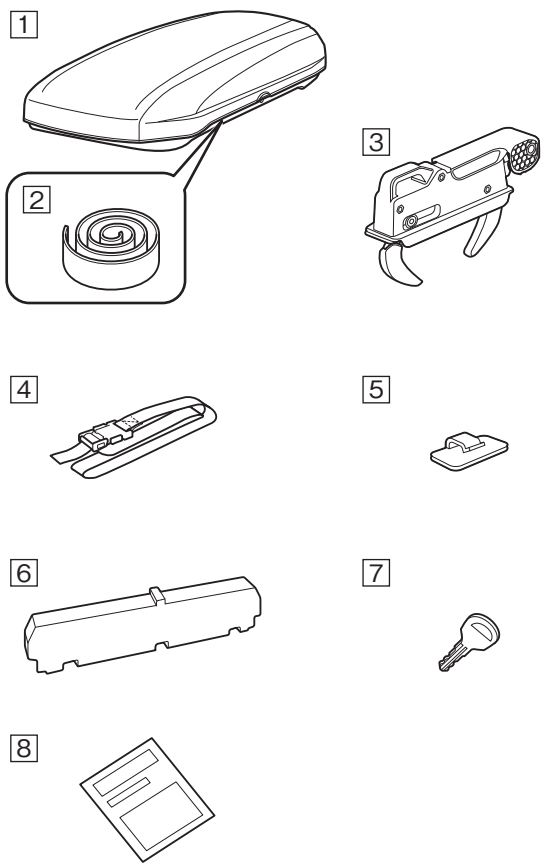
ご使用前に必ずこの取扱書をお読みいただき、記載された内容に従って取り付け、正しくお使いください。
取扱上の注意事項を必ずお読みください。本書は紛失しないよう車の中に保管してください。

なお、本品を他のお客様にお譲りになる時は必ず本書も合わせてお渡しください。

品 番

品 番	0 8 3 0 8 - 0 0 G 5 1
-----	-----------------------

構成部品

	ルーフボックスセット		
	No.	品 名	個数
	①	ルーフボックス	1
	②	水入り防止ゴム	4
	③	メモリークランプ	4
	④	ベルト	2
	⑤	ベルトフック	2
	⑥	サポートブロック	2
	⑦	キー	2
	⑧	取扱書	1
補給品番 (08308-00D70)			
	No.	品 名	個数
	③	メモリークランプ	1
補給品番 (08308-00D80)			
	No.	品 名	個数
	②	水入り防止ゴム	1

ご不明な点はお買い求めのトヨタ販売店へお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社

取り付け上の注意事項

この取扱書では安全にご使用いただくため、特にお守りいただきたいことを次のマークで表示しています。

この取扱書に記載されていない取り付けおよび使用法は絶対に行わないでください。記載事項を守らなかったために発生した不具合につきましては、責任を負いかねる場合があります。あらかじめご了承ください。

 **注 意** …… 注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等の恐れがあります。

 **アドバイス** …… より安全、快適にご使用していただく上で知っておいていただきたいことを記載しています。

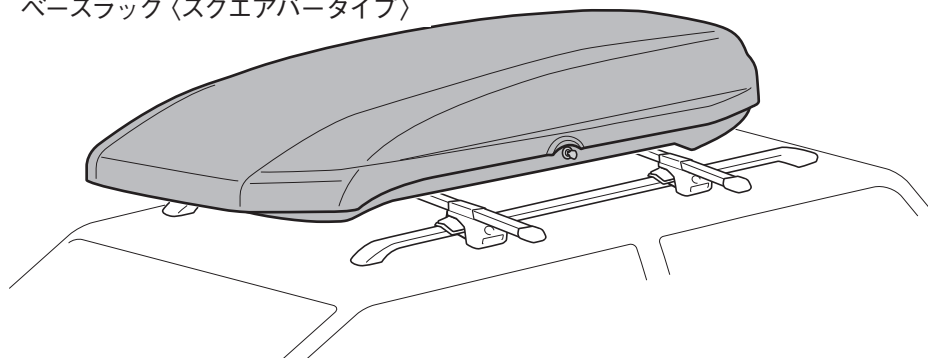
1. 作業がしづらい場合は、脚立などを使用して作業を行ってください。
2. この取扱書に記載されていない、取り付けおよび使用法は絶対に行わないでください。
3. 記載事項を守らなかったために発生した破損、故障、事故につきましては、責任を負いかねる場合がありますのであらかじめご了承ください。
4. 脱脂剤等の使用時は、火気に充分注意してください。

取り付けに必要な工具等

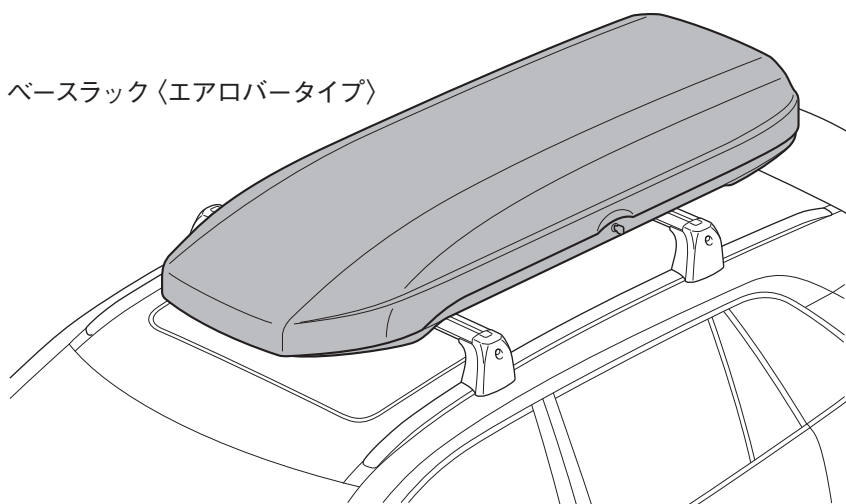
・ 脱脂剤等、ウエス、軍手、脚立、メジャー

取り付け概要

ベースラック〈スクエアバータイプ〉

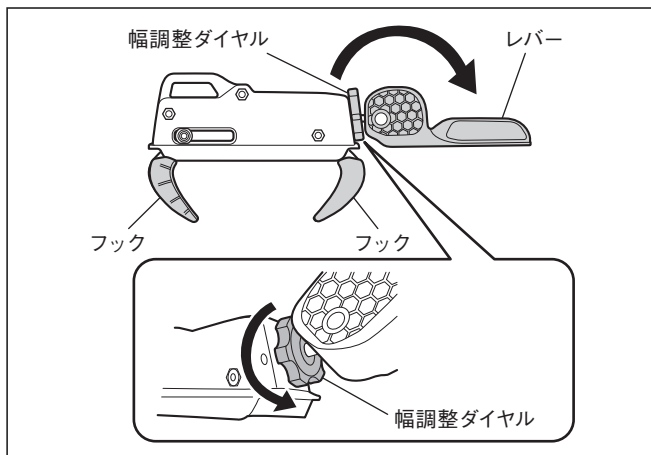


ベースラック〈エアロバータイプ〉



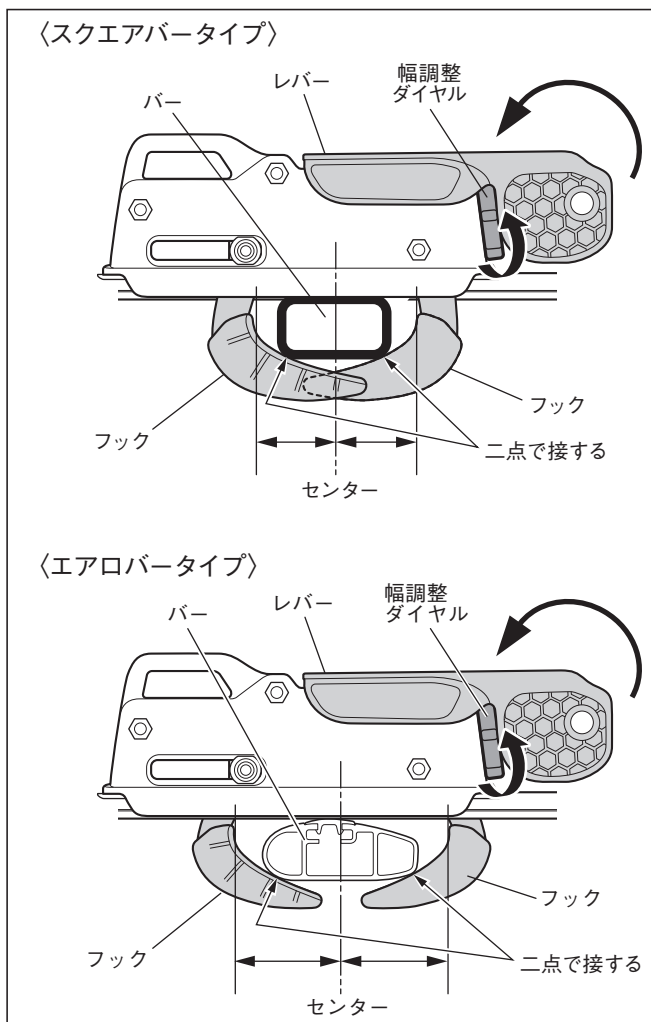
取り付けの準備

この作業は4箇所同様に行ってください。



メモリーランプの幅調整

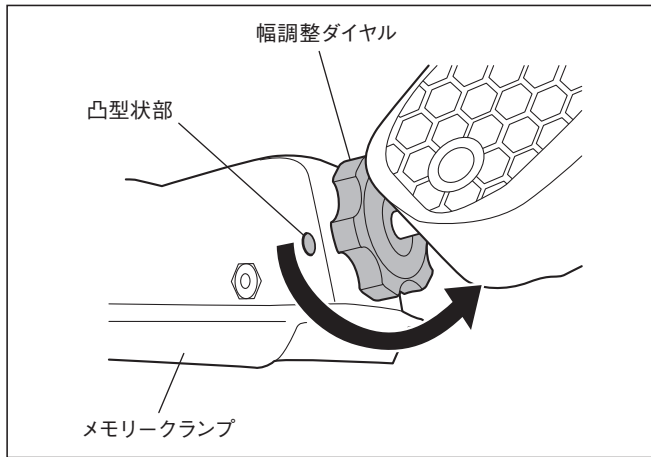
1. メモリーランプのレバーを持ち上げフックを開いた状態にします。
2. 幅調整ダイヤルを矢印方向に回し、十分に緩ませた状態でメモリーランプのみをバーに載せます。



3. レバーを元の位置に戻します。
4. 幅調整ダイヤルを矢印方向に回し、フック間のセンターとバーのセンターが一致し、バー下面と二点で接するよう調整し、締め付けます。

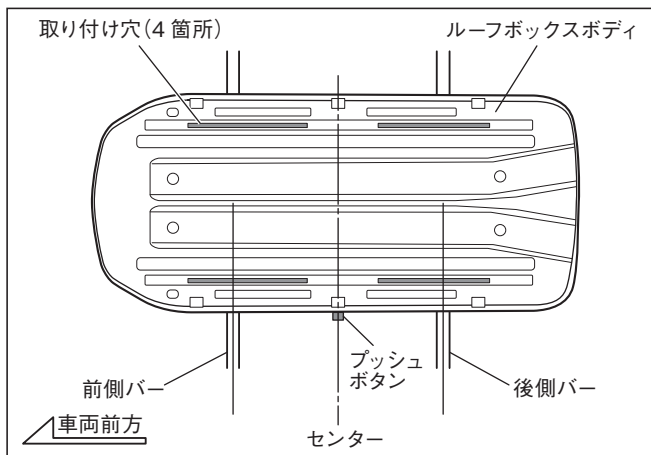
⚠ 注意

1. フック先端の高さが違う場合は、センターに調整されていません。
 2. フックが片当たりしていないか確認してください。片当たりしていると、メモリーランプが取り付け後に緩む場合があります。
5. レバーを持ち上げ、フックを開いた状態にします。



- 幅調整ダイヤルをメモリーランプの凸形状部を目印とし、どれぐらい回したかを確認しながら、バーからフックがはずれるまで緩め、メモリーランプを取りはずします。

取り付け要領

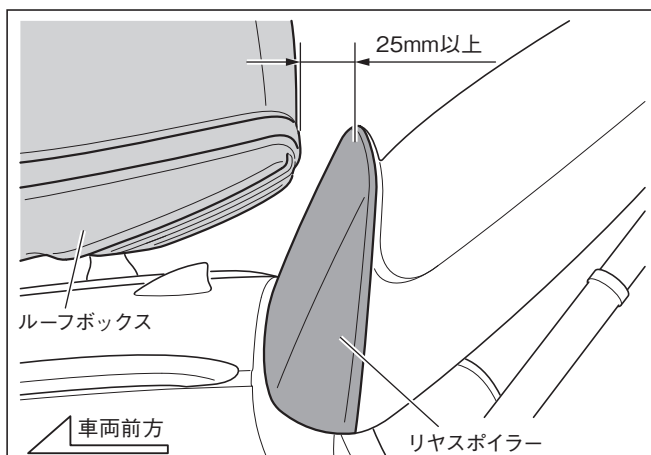


ルーフボックスの取り付け

- 2人作業でルーフボックスの前後を持ち、車両横よりルーフに接触させないように十分注意しながらルーフボックスが車両の進行方向と平行になるようルーフボックスをバーの上に仮置きします。
- 前側と後側のバーにルーフボックスボディの取り付け穴（4箇所）が合うように調整します。
- 図示寸法を参考にプッシュボタンがバー間のセンターに来るように位置を決めます。

⚠ 注意

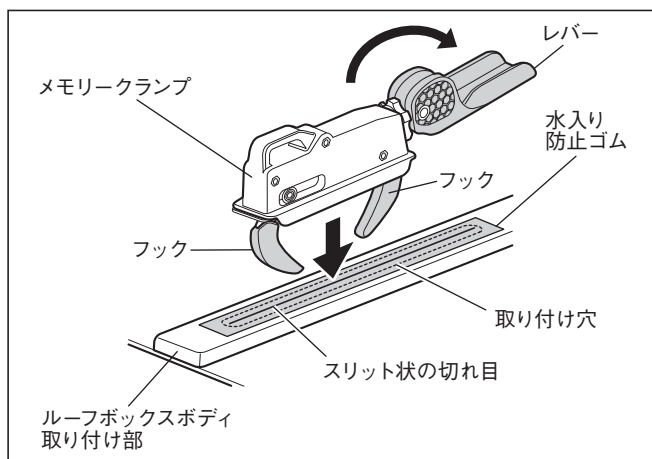
バー下面に風切音低減プレートが付いている場合は、できるだけ風切音低減プレートを避けて取り付けを行ってください。



- バックドアを開けて、バックドアやリヤスポイラー等とルーフボックスの隙間を25mm 以上確保します。

⚠ 注意

バックドアを開ける時に、ルーフボックスがバックドアに当たると、ルーフボックスや車両が損傷する恐れがあります。



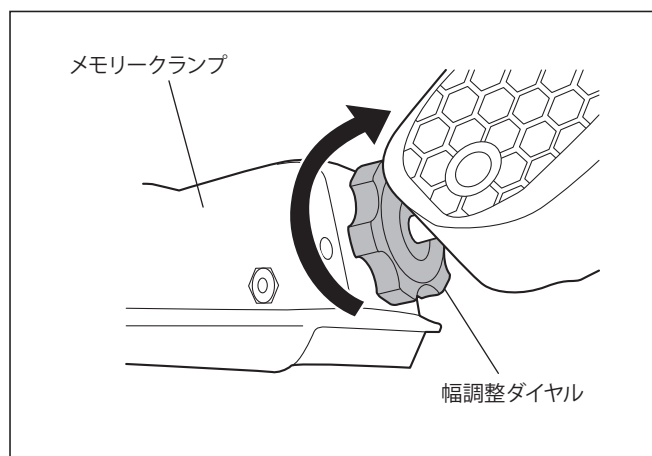
5. 幅調整したメモリークランプのレバーを持ち上げ、フックがバーをはさみ込む位置になるように、取り付け穴に差し込みます。

⚠ 注意

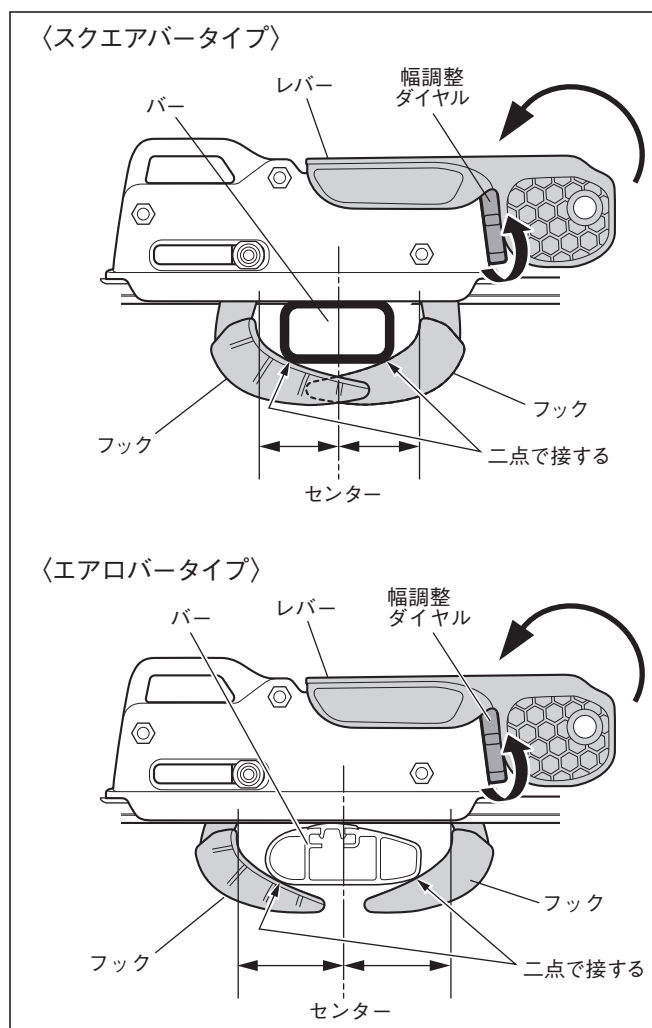
メモリークランプに取り付け向きはありませんが、左右は同じ向きになるように取り付けてください。

👉 アドバイス

1. 水入り防止ゴムは、フックを差し込むと部分的にカットされます。
2. バーとの位置関係により、メモリークランプの向きが限定される場合があります。



6. 幅調整ダイヤルを矢印方向に回転して締めます。
 - ・ 幅調整時に回した分を目安〈スクエアバータイプ〉
 - ・ 約2回転を目安〈エアロバータイプ〉

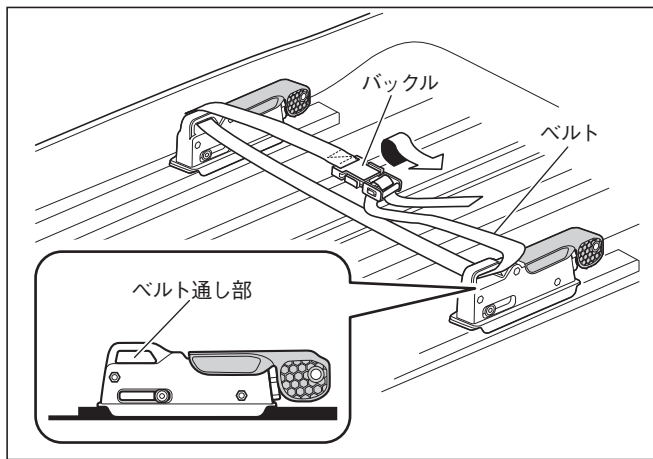


7. フック間のセンターとバーのセンターが一致していることを確認します。
8. フックがバー下面と二点で接するようレバーを元の位置に戻します。
9. レバーがゆるい場合は、レバーを持ち上げて幅調整ダイヤルを矢印方向に回転させ、確実に締め付けルーフボックスを固定します。

⚠ 注意

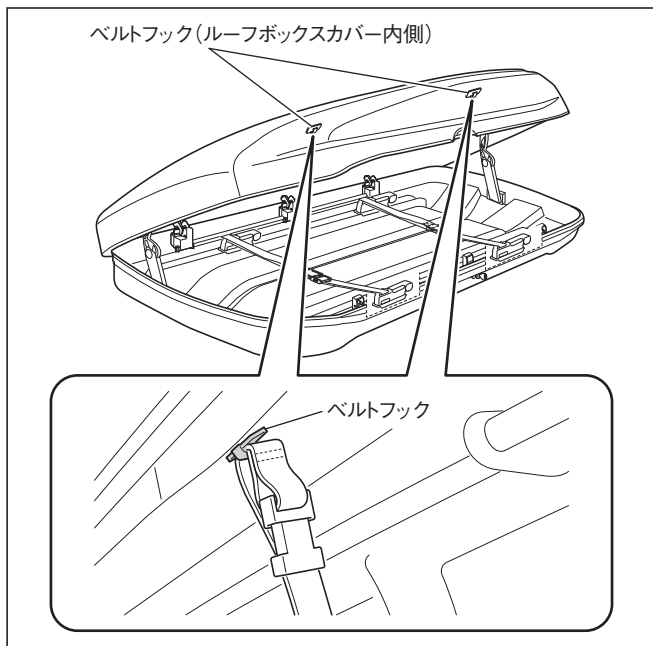
1. フック先端の高さが違う場合は、センターに調整されていません。
2. フックが片当たりしていないか確認してください。片当たりしていると、メモリークランプが取り付け後に緩む場合があります。

10. 残りの3箇所も同様に行ってください。



ベルト／ベルトフックの取り付け

1. メモリーランプのベルト通し部にベルトを通し、ベルトをバックルに通します。

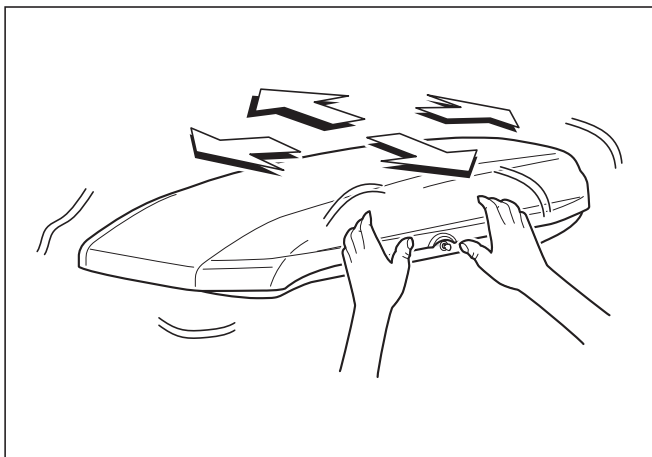


2. ルーフボックス内側の汚れ、油分を脱脂剤等を使用し、ウエスで拭き取ります。
3. ベルトフックをルーフボックスカバー内側のベルト上部の位置に貼り付けます。

⚠ 注意

1. ベルトフックを一度貼り付けてから剥がしますと、粘着力が低下しますので、貼り付け後は、剥がさないでください。
2. ベルトフック貼り付け後は最低でも24時間以上置いてからベルトを掛けてください。

取り付け後の確認

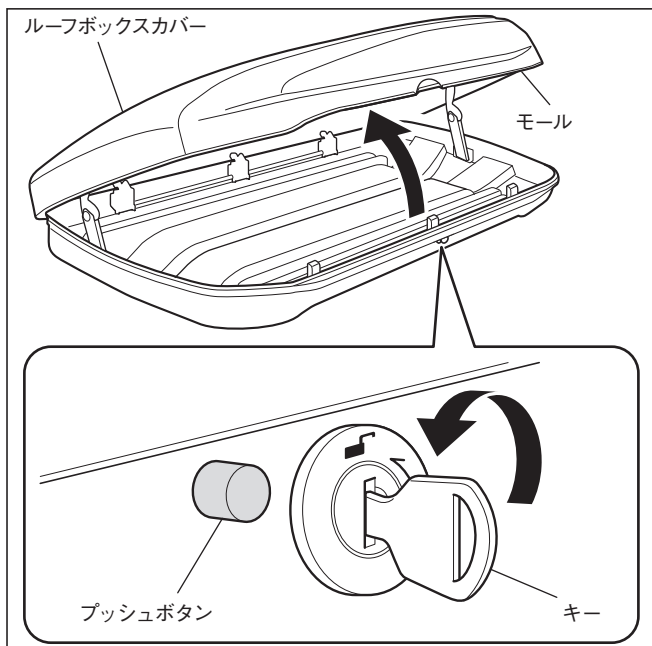


ルーフボックスを前後左右に揺すり、メモリーランプの緩みによるガタツキがないか、バーに確実に固定されているかを確認します。

⚠ 注意

ガタツキがある場合は、再度4ヶ所のメモリーランプの幅調整ダイヤルを締め付けてください。

荷物の積載方法



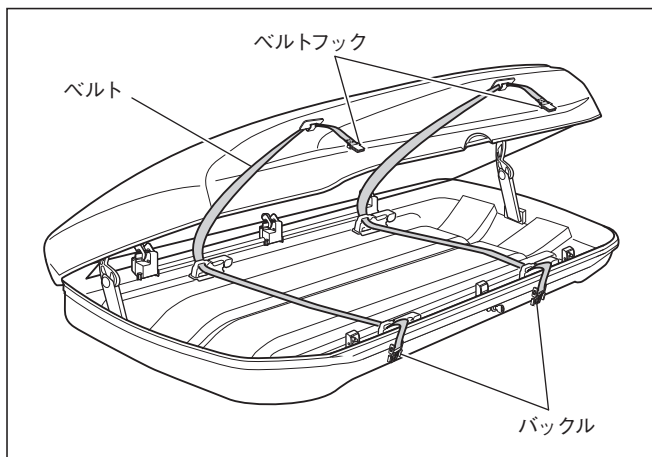
1. キーをキーシリンダーに差込み、の方向に90°回します。
2. プッシュボタンを「カチッ」と音になるまで押込みます。
3. ルーフボックスカバーを持ち上げ、全開にします。

⚠ 注意

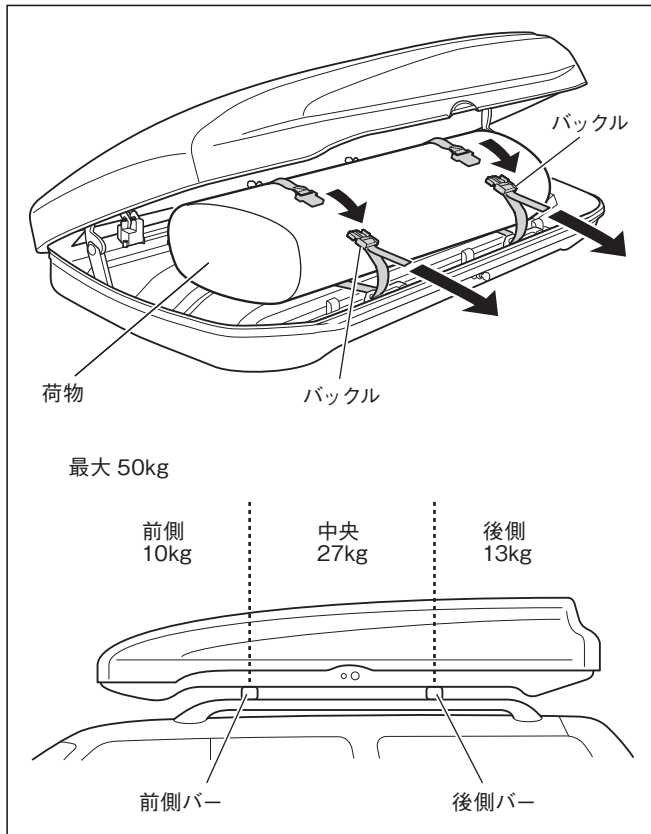
1. 左右同時にルーフボックスカバーを開けないでください。必ず片方を完全に閉じてから反対側を開けてください。
2. ルーフボックスカバーのエッジに貼り付けされているモールに無理な力をかけないでください。剥がれたり、切れたりする原因となります。

👉 アドバイス

1. ルーフボックスカバーが引っ掛かり、開けづらい場合は無理に開けようとはせず、一度閉め、下に押付けてからルーフボックスカバーを水平に持ち上げてください。
2. ルーフボックスカバーが開いた状態では、キーは抜けません。



4. ベルトのバックルを外し、ベルトをベルトフックに掛けます。



- 荷物を積載してベルトフックに掛けたベルトをはずし、バックルをはめてベルトを締め付け荷物を固定します。
- ルーフボックスカバーを閉じキーを回して、ロックします。

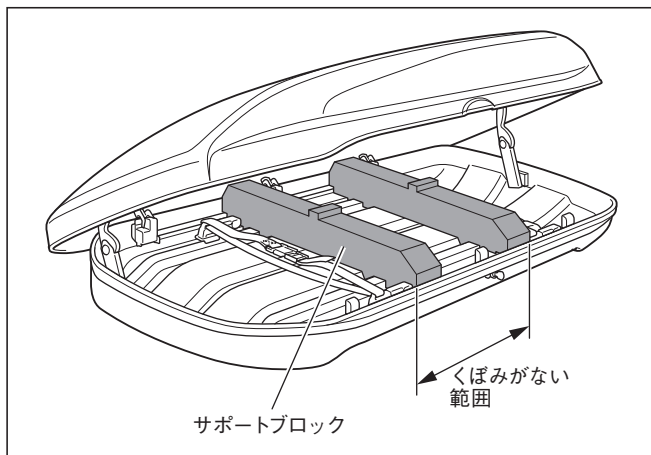
⚠ 注意

- ルーフボックス開閉時に、手を挟まないよう注意してください。
- 荷物を入れすぎた状態で無理にルーフボックスカバーを締めると、確実に閉まらなかったり、本品や荷物が破損する恐れがあります。
- ルーフボックスカバーを閉める際に、フック部に荷物を挟まないようにしてください。
- 前側には10kg、中央には27kg、後側には13kgを超える荷物を積載しないでください。
- 荷物は平らで均等に積載してください。

👉 アドバイス

荷物の固定が充分でないと、走行中に荷物が移動して、ルーフボックスカバーが開きにくくなる場合があります。その場合はルーフボックスカバーを下に押し下げながらプッシュボタンを押してください。

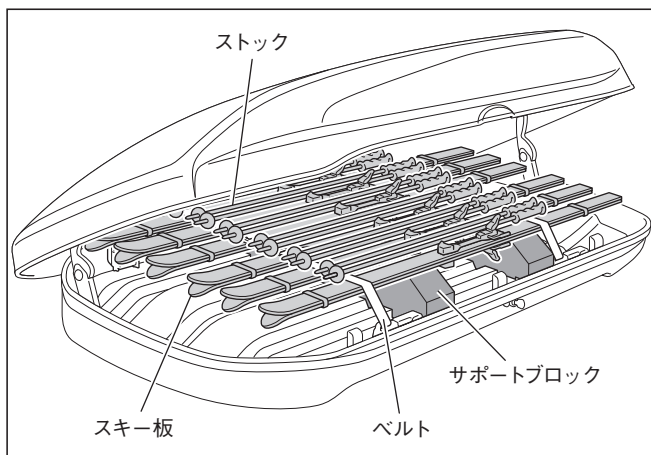
サポートブロックの使用方法



サポートブロックを、ルーフボックスボディのくぼみがない範囲に設置します。

⚠ 注意

サポートブロックは取り付けメモリークランプの上には設置できません。



スキー板／ストックの積載方法

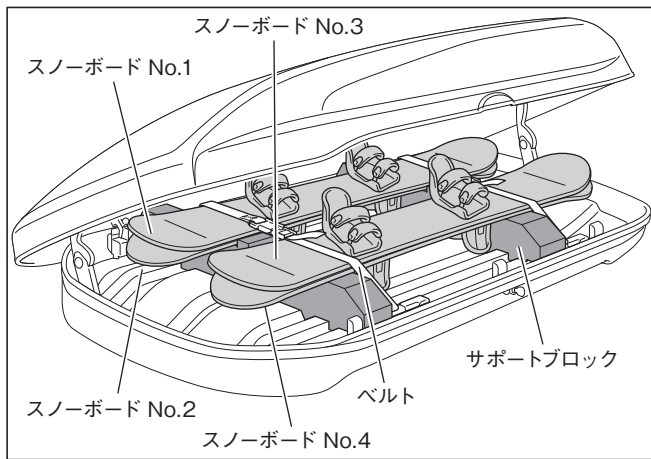
左右のスキー板を組合わせて積載し、ストックはスキー板とスキー板の間や空いているところに積載します。

👉 アドバイス

スキー板・ストックの積載可能数は各6セットです。

⚠ 注意

ストックを積載した後にベルトを締め付けると、ストックが損傷する恐れがあります。スキー板をベルトで締め付けた後にストックを積載してください。



スノーボードの積載方法

サポートブロックの上にスノーボードを積載します。

👉 アドバイス

スノーボード積載可能枚数は4枚です。

日常のお手入れ・保管方法

⚠ 注意

1. 本品が汚れた場合は、水洗いをしてください。洗剤・ワックスを使用した場合は、本品の素材を劣化させる恐れがあります。
2. 本品に潤滑スプレー、油、グリス、シンナー、洗剤を使用しないでください。種類によっては、本品の素材を劣化させ、割れなどが発生する恐れがあり、本品が脱落し、後続車や人を重大事故に巻き込む恐れがあります。
3. 本品を長期間使用しない場合は、直射日光、高温、多湿を避けて保管してください。

使用上の注意事項

⚠ 注意

1. 本品の本体重量は19kgです。
2. 本品に亀裂や破損がありましたら使用しないでください。
3. メモリーランプのフックやレバーに変形、破損がありましたら交換してください。
4. 積載時は必ず法定速度以下の速度で走行してください。また、強風時や悪路では十分速度をおとして走行してください。
5. ルーフボックスカバーは確実に閉めてください。ルーフボックスカバーが走行中に開き、荷物が脱落したり、風圧によりルーフボックスが破損・脱落する恐れがあります。
6. 本品に穴を開けるなどの改造をしないでください。破損・脱落する恐れがあります。
7. 積載物は、均一に積載し必ずベルトで固定してください。ルーフボックスが破損したり、荷物が飛び出す恐れがあります。
8. ルーフボックスは直射日光にあたることにより、内部が高温になります。下記の物を積載すると、爆発や火災、脱水症状による死亡、高温による損傷や変形、腐敗の恐れがあります。
 - ・ 高圧ガスを使用した各種スプレー缶
 - ・ 可燃性のあるガソリン、白灯油など
 - ・ 精密機器
 - ・ 生き物（ペットなど）
 - ・ 生もの（野菜など）
9. 走行前には、必ず本書の取扱書をご確認の上、各部品の緩み、割れがないことを確認してください。また、走行中も定期的に各部品の緩みや割れがないことを確認してください。
10. 本品は防水構造ではありません。強い風雨などにより積載物が濡れる恐れがあります。
11. 突風・強風時にルーフボックスの開閉を行うと、ルーフボックスが破損したり、身体をはさまれて、ケガの原因になる恐れがあります。
12. 本品装着時の運転は、積載物の落下や事故等につながる恐れがありますので急発進、急ブレーキ、急ハンドル等の運転は極力お控えください。また、道路条件（悪路、山道等）、天候（雨、雪、風等）を常に考慮いただき、スピードを控えめに安全運転を心がけてください。

⚠ 注 意

13. 本品装着後、トンネルおよび立体駐車場等の高さ制限のある場所、看板等上部に建造物がある場所を走行する場合は、車両・積載物全高を考慮して、車両全高が高さ制限内であることを確認してください。
14. 本品を取り付けたままの自動洗車機のご使用は、本品・車両・洗車機の破損、故障等の原因となりますので使用しないでください。
15. 本品装着時に、自動車カバー（塗装飛散防止用カバー含む）を使用しないでください。気象条件により高温になり、変形する恐れがあります。
16. 本品上に、荷物等を置かないでください。カバーが変形する恐れがあります。
17. 本品の最大積載荷重は50kg ですが、車両毎に許容積載荷重が異なりますので、ベースラック取扱書にて許容積載荷重を確認し、最大積載荷重を算出してください。

・最大積載荷重の算出方法

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{最大積載荷重} \\ \text{(50kg を超え} \\ \text{ない範囲)} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{車両毎の} \\ \text{許容積載} \\ \text{荷重} \\ \hline \end{array} - \left(\begin{array}{|c|} \hline \text{19kg} \\ \text{(ルーフボック} \\ \text{スの本体重量)} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{他のアタッ} \\ \text{チメントの} \\ \text{重量} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{他のアタッチメン} \\ \text{トに積載している} \\ \text{積載物の重量} \\ \hline \end{array} \right)$$

・50kg 以上の荷物を積載したり、前側・後側だけなどに片寄って荷物を積載すると、ルーフボックスの破損や脱落の恐れがあります。

18. バックドアを開ける時に、ルーフボックスがバックドアに当たると、ルーフボックスや車両が損傷する恐れがあります。ルーフボックスを当たらない位置にずらして取り付けてください。